

鶴来打刃物

歴史と特色

鶴来町は、やい刃の劔(つるぎ)と書かれたほど、刃物鍛冶が盛んで、江戸時代には加賀藩御用鍛冶をつとめた刀工一鉄も出た。また、白山麓と平野部との物資の集散地としても栄えた町で、農耕用から山林用、家庭用まで幅広い製品が作られていた。

明治以降も数軒あったが、現在"火作り"している鍛冶屋は1軒だけで、注文に応じ手作りの伝統を今に伝えている。

技法はほとんど昔のままで、松炭がコークス、ふいごが送風機に代わったぐらいで、稀少な野鍛冶である。

历史和特色

鶴来町の“鶴来”字也被写作“劔”字，江戸时代起刀具的打制冶炼非常盛行。制品从农耕用到山林用、家庭用刀具，范围非常广泛。同时，作为物资集散之地也非常繁荣。现在铁匠铺仅有一家，根据订单不同进行手工打制的传统一直传承至今。

情報 资讯

主な生産地(主要产地)	白山市(白山市)
主な製品名(主要产品名)	クワ、カマ、ナタ(铁锄、镰刀、劈刀)
主な生産者(主要生产者)	太田打刃物製作所(太田打刃制作所) 〒920-2121 白山市鶴来本町4-2-5 (白山市鶴来本町4-2-5) TEL (076) 272-0111

歴史と特色

江戸で袷に小紋がつけられたのは1750年頃と言われ、その後金沢でも始められ文化年間(1800年頃)には型付職人14人と記録も残っており、型紙も彫られていたと思われる。

武家や町人の袷や慰斗目用として、小さな点で構成された模様で、型紙を使って染め上げられたが、その後次第に改良され、小柄、中柄、模様の大小などを彫り込み、加賀小紋として現在も伝えられている。また、明治の後半、友禅柄が型で染められるようになり、より複雑な型が彫られ、一枚の着物に400枚以上の型を作る場合もある。一色に1枚の型紙が必要なため、正確に同じ模様を何枚も彫り、染めを重ね何枚か続けて連続模様にするなど高度な技術を誇るが、型紙職人は細かい、根気のいる仕事の割に地味な裏方であるため、後継者は少ない。型紙に使う紙は伊勢形紙を使用し、文様を彫刻した後、漆で囲めたものと、漆を用いて紗とはり固めたものがある。

历史和特色

从封建时代开始制作一种叫做“小纹”的筒朴和服用的纸样。到了近代，友禅和服的图案开始用纸板印染，因为一种颜色就需要一张纸板，要染制一件和服，就需要能正确地制出数百张相同图案的纸板技术。纸板的材料是使用和纸，再用漆和布加固。

情報 资讯

主な生産地(主要产地)	金沢市(金泽市)
主な製品名(主要产品名)	手捺染型紙(手工印花纸板)
主な生産者(主要生产者)	安田染型店(安田染型店) 〒920-0865 金沢市長町2-7-19 (金沢市長町2-7-19) TEL (076) 223-3886

鶴来打制刀具

手工印花纸雕刻

手捺染型彫刻